

会 議 録

会議の名称	西東京市都市計画マスタープラン策定市民懇談会 (平成15年度第4回:通算第10回)
開催日時	平成15年8月6日 午後6時30分から9時00分まで
開催場所	インゲビル3階会議室
出席者	(委員)堀越座長、宇賀神委員、奥村委員、佐藤委員、田中(政)委員、 鳥塚委員、中島委員、野中委員、蓮見委員、松川委員、村田委員、 山下委員) (欠席)永田副座長、青木委員、大森委員、佐伯委員、武田委員、田中 (雅)委員、沼委員、米山委員) (事務局)館岡都市計画係長、松本主任、増岡主事
議 題	「地域別構想(東伏見・西武柳沢駅北部地域、東伏見・西武柳沢駅南部地域のまちづくり)」に関する検討等
会議資料	1 都市計画マスタープラン関連資料 (地域別の概況図・東大農場の概要資料・ふれあい石神井川散策マップ・市民説明会の開催について)
会議内容	会議内容の要点記録

発言者名	発言内容
事務局	挨拶、定足数に達していることの報告。
座長	あいさつ
以下、発言者は記述せず、論点ごとに要点を筆記する	<p>開会宣言</p> <p>【議事の要点】</p> <p>1．15年度第3回市民懇談会会議録について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15年度の第3回市民懇談会会議録の事務局案について確認をいただいた。 ・前回の懇談会の終了後、委員より、石神井川沿いにはえる「チガヤ」に関する記述について表現を補足してもらいたいとの意見が事務局に寄せられ、一部を修正したことが報告された後、一同に了承をいただいた。 <p>2．市民説明会の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、8月18日から、10日間にわたって市民説明会を開催することが報告された。 ・これに対して委員より、次のような質問・意見が出された。 「都市計画マスタープラン」について説明するという説明であるが、現在ある「まちづくり基本方針」とどう異なるのか。「都市計画マスタープラン」が完成すれば「まちづくり基本方針」はなくなるのか。（事務局より、西東京市の都市計画マスタープランを策定するため、事務局が旧田無市・旧保谷市の都市計画マスタープランを事務的に統合したものが現在の「まちづくり基本方針」であり、たたき台であること、今後ご意見を踏まえて「西東京市都市計画マスタープラン」に充実していく予定であることが説明された。） 前回は午後8時まで開催したものが午後6時までで短縮されているのはなぜか。また、インターネットのホームページによる意見収集は行わないのか。（事務局より、前回の来場者統計から6時以降はほとんど人が見えなかったことから午後6時までとしたこと、ホームページによる意見収集は今回も実施することが説明された。） <p>3．東伏見・西武柳沢駅北部地域のまちづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東伏見・西武柳沢駅北部地域のまちづくりに関して、概況が事務局より説明され、その後次のような意見・感想が出された。 <p>< 地域内の道路網について ></p> <p>かえで通りは素晴らしい空間となっており、このような道路を増やしていくべきである。</p> <p>保谷・志木線は交通事故の危険を感じる。</p> <p>保谷新道は歩道幅が1m程度しかなく危険である。歩道を拡幅できないのであれば、車道と同じ高さにした方がまだ良い。</p> <p>保谷・志木線は唯一新座方面へ抜ける古くからの道である。</p> <p>主要地方道8号は、西武柳沢駅近くでは一方通行であり、管理を東京都から西東京市に移管してはどうか。</p>

福祉施設が多く立地する地域であるにもかかわらず、歩道や隅切り・ガードレールや点字ブロックの設置などの整備が立ち遅れている印象を受ける。

保谷・志木線はその沿道に小学校がいくつか隣接しており、その特色を生かして欲しい。

<西武柳沢駅の北口周辺について>

西武柳沢駅の北側について現状のままとするのか、駅前広場を整備するのは大きなテーマである。

ちょうど良い道幅のふれあいの感じられる商店街となっており、現状のままで良いと思う。

南口と同様の発展を望んでいる地域の人たちもいる。

道路の拡幅は商店の転出を招き、商店街を衰退させてしまうため、主要地方道8号の拡幅は適切な方法でない。

北口広場はかつて市内で最も広い空間であったし、日用品の買物は、周辺商店街で事足りていた。それが守られてきたのは道路の拡幅がなかったからとも考えられる。

<田柄川について>

本町小学校付近に水路があったと記憶しており、活用すべきである。

(事務局より田柄川という暗渠があることが説明された。)

田柄川の上部は通学路にもなっており、地上部に水辺空間を復活すると空間が不足することも懸念される。

<その他>

西武柳沢駅の北口付近にかつてみられたけやきの大木がなくなってしまい、残念である。

公団東伏見団地の周辺は、広々しており、良い印象を受ける。

駅前広場の少ない西武線沿線にあって、東伏見駅は、南北に駅前広場が整備されており貴重である。

農地等のオープンスペースがあまり多くなく、低層住宅が密集する傾向にある地域である。コミュニティ・ふれあいがキーワードになる。

4. 東伏見・西武柳沢駅南部地域のまちづくりについて

- ・東伏見・西武柳沢駅南部地域のまちづくりに関して、概況が事務局より説明され、その後次のような意見・感想が出された。

<地域内の公園緑地・水辺空間について>

千駄山広場は、遊ぶ子どもが少なく寂しい雰囲気である。球技等を禁止しなくても良いのではないか。

千川上水は鯉が泳いでおり、生かすべき地域資源である。

千川上水は単なる水路であるが、石神井川は東伏見公園や早稲田大学グラウンドなど、川に沿って公園やオープンスペースがあり、良い空間となる可能性をもっている。

石神井川にも水源が確保されれば水質が改善する。

東伏見公園の計画地の多くが低層住宅地となっており、全面買収によ

る公園化には実現性・妥当性があるとは思えない。市から東京都に対して働きかけを行い、東大農場跡地の公園化を求めるべきではないか。

<工場地のあり方について>

東京ガスのガスタンクは圧迫感があるため、ペイントの工夫などを検討すべきである。（別の委員より、現在はガス施設として利用していないとの情報提供がされた。）

東京ガス付近に町工場が点在するが、民家が後から建てられ就業時間を短くせざるを得なくなり、やがては転出を余儀なくされている。工場が集まって操業できるような環境を作るべきである。

就業の場があってこそまちは成り立つ。最近の工場は必ずしも公害を発生するわけでもなく、工場アパートの整備などを検討する必要がある。

調布や花小金井にある生命保険会社のような、大規模でしかも物流を伴わないような事業所を呼び込めれば有効である。

ベンチャー系の企業は公害問題を発生しない。育成する努力が求められる。

東京ガスのガスタンクが使用されていないのであればそこに工場を誘致する事も検討したらどうか。

現在ある工場を転出させてしまわないことが前提となる。

府中の北口のビジネスパークのように、必ずしも企業が順調に立地しない恐れもあるため、慎重な検討が必要である。

<その他>

東伏見稲荷神社の鳥居が交番で隠れてしまっているなど、地域の歴史的資源が生かされていない現状を感じる。

東京三菱銀行のグラウンドは、大規模であるが地域への開放も検討されるべきである。（別の委員より、保谷第二小学校が利用しているとの情報提供がされた。）

東伏見四丁目・五丁目あたりは、練馬区と連たんした良質な低層住宅地である。

保谷第二小学校と、田無駅南部地域の柳沢小学校などが互いに近接しており、将来どうするのか大きな課題である。

5. 東大農場跡地のあり方について

- ・10年程度先に移転が予定されている東大農場の跡地のあり方について、委員より、「市内唯一の大規模緑地である東大農場は、誰が所有者になるかが、現在のままの姿で保存すべきである。」との趣旨の意見書が提出・説明された。

- ・その他、他の委員より、次のような意見が出された。

基本的に緑を残すべきである。マンション化だけは避けたい。

誰が所有するかにより、その有り様も変わってくる可能性があるため、慎重に検討する必要がある。武蔵野市の武蔵野中央公園のように、市が払い下げを受けて管理するのが理想的である。

子どもの頃から自由に入ることのできた広大で貴重なところであった。市内で最大の規模の緑をもっており大切にしたい。

旧田無市の都市計画マスタープランに記述されたように、「保全に努力する」という方向性が基本となる。緑の供給基地、憩いの場として残したい。

管理者が不在となるため、誰が耕し、公園であれば誰が管理するのかという問題を解決する必要がある。また跡地利用が決まるまで売却されるようなことは避けたい。

敷地の南側に指定されているやや緩い用途地域を、北側の厳しい規制のものに統一することで、大規模なマンションの建設は防ぐことができる。市街化調整区域に指定する考えもある。

ヨーロッパには東大農場を上回る規模の緑地も多い。「みどりの文化」の定着を図る中で保全活動を進めていく必要がある。

旧田無市の都市計画マスタープランに記述された方針を貫徹すべきである。実際には費用の問題が生じるため、東伏見公園の建設の代わりに東大農場跡地の公園化こそ進めるべきである。東京都との折衝を望みたい。

オープンスペースがあると何か作ろうとしてきたのがこれまでだったが、今後は、何も作らないという考えがあっても良いと思う。一般の市民も、緑の保全のための負担であれば拒まない。

過去の失敗を繰り返さないように留意して、現在のまま残したい。旧田無市議会での決議の理念を再認識し、西東京一丸となって取組んでもらいたい。市民運動の盛り上げや市条例の制定なども必要ではないか。

6．次回の開催日時・開催場所等について

- ・次回の懇談会は、9月3日の午後6：30からとする。
- ・懇談会の終了後、江戸東京建物園で紙芝居をされている委員より、「はらっぱ」等の題材で実演いただいた。

(以上)

【市民懇談会終了後に提出された意見】

4．東伏見・西武柳沢駅南部地域のまちづくり<その他> について

両校（保谷第二小学校と柳沢小学校）は、市内でも児童数の多いところであり、地理的感覚だけで統合はすべきではない。

